

美幌町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

美幌町は、北海道東部のオホーツク圏に位置し、恵まれた自然資源と交通結節点の立地条件に優れた地域特性に支えられているが、近年の人口減少や高齢化、運転手不足が進む中、住民の足の確保が難しくなっており、バス運行の要望が増えている状況にある。今後も、高齢者等の交通弱者が利用しやすい公共交通の効率的運行が重要となるが、公共交通を維持するための費用負担が年々増加しており、財源確保が課題となっている。

町内を運行する地域間幹線系統と地域内フィーダー系統バス路線は美幌駅前バスターミナルを中心に接続しており、市街地の生活圏域を回る市内循環線及び郊外部全体を網羅する乗合タクシー、令和4年4月から運行している申込バス「もーびー」等、持続可能な公共交通の確保・維持に向けて、利用状況などを検証しながら効果的な公共交通（デマンド型・路線型）の枠組みや生活交通ネットワークの構築に向けて検討を行い、地域の足を維持する必要がある。

生活交通確保維持改善計画の目標

利用者のニーズや利用状況を踏まえ、公共交通の利便性の更なる向上を目指し、令和7年度の目標数値を設定した。

<目標>

- ・市街地バス路線（美幌駅循環線・美幌駅旭小学校線・登下校線・美幌高校線）の年間輸送人員21,800人以上
- ・地域内フィーダー系統路線合計の経常費用に対する運賃収入の割合が13%（申込バス「もーびー」を含めた運賃収入割合15%）
- ・運転免許証自主返納者のタクシーを除く公共交通利用率12%

令和7年度事業概要

【乗合型バス】

- ・美幌駅循環線 美幌駅前～マナビティセンター/旭小学校～美幌高校
- ・美幌駅旭小学校線 美幌駅前～マナビティセンター/旭小学校～美幌高校
- ・登下校線（北回り） 美幌駅前～美幌町役場～美幌高校
- ・登下校線（南回り） 美幌駅前～青葉～美幌高校
- ・美幌高校線 美幌療育病院～美幌～美幌高校

（※R6.12月から運休、フィーダー補助対象外）

○運賃 上記全ての路線 150円/1乗車

【デマンド型】

乗合タクシー

- ・豊岡方面 豊岡 ～ 豊岡方面 ～ JAびほろ
- ・栄森方面 栄森 ～ 栄森方面 ～ 美幌駅
- ・豊幌登栄方面 登栄 ～ 豊幌登栄方面 ～ 美幌駅
- ・古梅方面 古梅 ～ 古梅方面 ～ 美幌駅
- ・日並都橋方面 日並 ～ 日並都橋方面 ～ 美幌駅
- ・報徳田中方面 田中 ～ 報徳田中方面 ～ 美幌駅

○運賃 500円/1乗車

地域公共交通の現況

- ・北海道旅客鉄道(株) JR石北本線（美幌駅）
- ・北海道北見バス(株) 美津線（北見～美幌～津別）
療養所線（北見～美幌）
津別線（美幌～津別）
美幌高校線
（美幌療育病院～美幌～美幌高校）
- ・阿寒バス(株) 美幌駅循環線
美幌駅旭小学校線
登下校線（南回り・北回り）
- ・美幌北海道交通ハイヤー(株) 乗合タクシー町内6方面
申込バス「もーびー」
町内8路線
- ・混乗スクールバス

協議会開催状況

- ・令和7年6月16日 第1回協議会開催
令和8年度地域内フィーダー系統確保維持計画
- ・令和7年12月25日 第2回協議会開催（書面）
令和7年度地域公共交通確保維持改善事業・事業評価

令和7年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

- ・市街地のバス路線について、美幌町地域公共交通計画に基づき路線を見直し、これまでに令和4年4月及び12月に路線・ダイヤの見直し、さらに令和6年5月1日から利用者の少ない路線バスの便について見直しし、効率的な運行を図っている。
- ・デマンド型バス申込バス「もーびー」については、利用者のニーズを捉え、令和6年6月に停留所を増設の利便性向上を図った。
- ・美幌高校生に対し、路線バスの周知、アンケート調査を実施し公共交通の利用の定着を図った。
- ・美幌高校線は、北海道北見バス(株)の運転手不足により、令和6年12月から運休となった。
- ・乗合タクシーは、利用者のニーズを把握して利便性の向上に努めているが、運行区域の人口減少に伴い、利用者が減少に歯止めがかからない状況となっている。

2) 運行系統

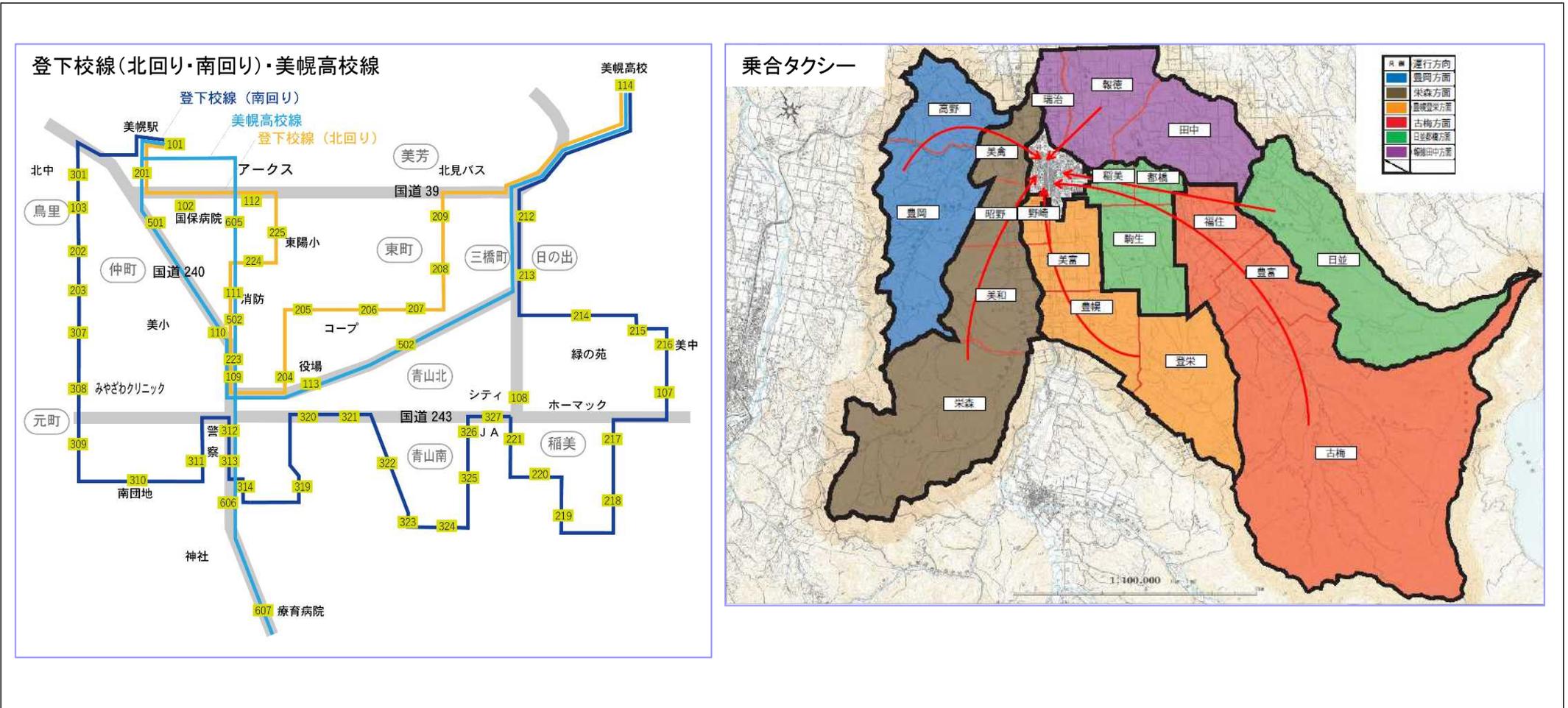
美幌駅循環線



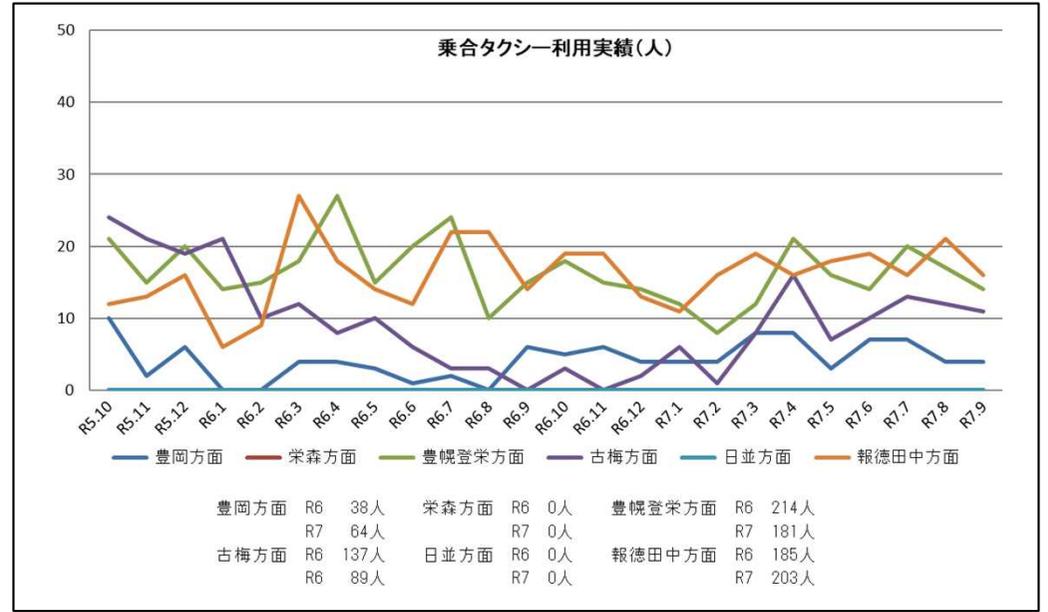
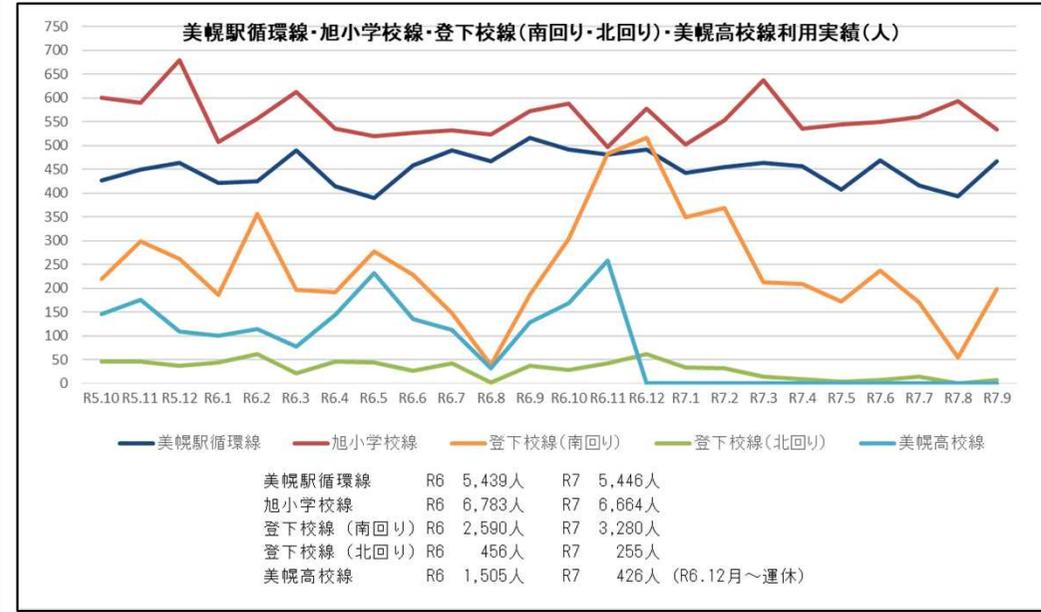
美幌駅旭小学校線



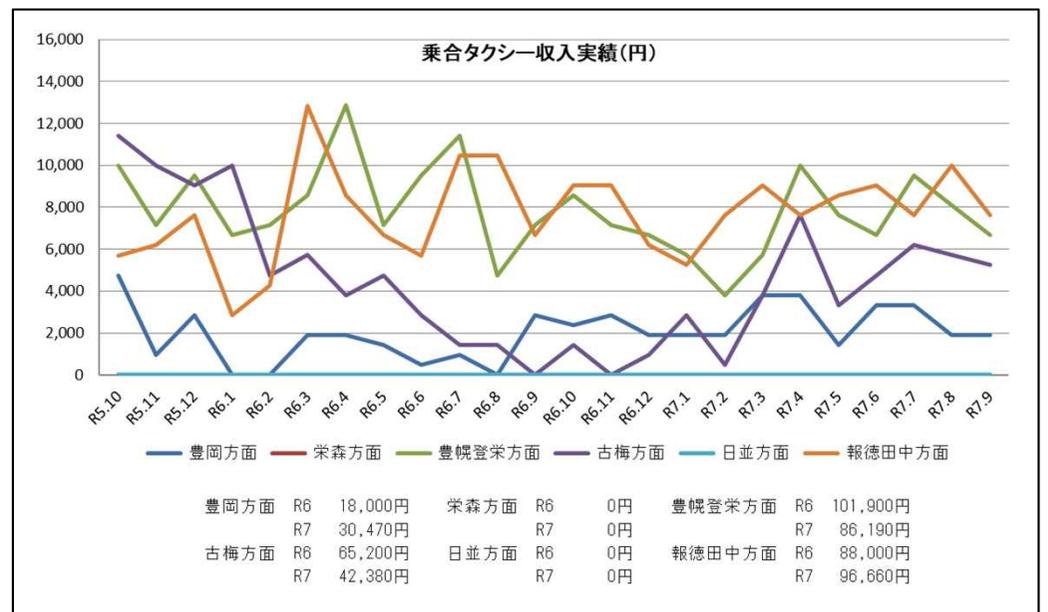
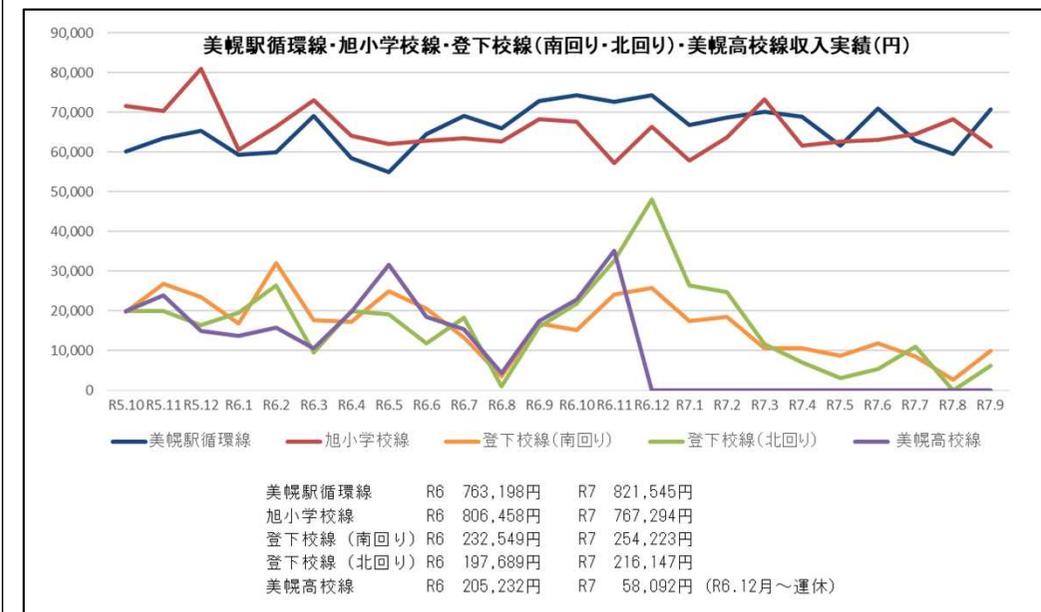
2) 運行系統



3) 利用実績



4) 収入実績



5) 事業実施の適切性

町内路線バスについては、計画どおりに運行されたが利用者数の目標値に達しなかった。要因の一つとして、美幌高校線が令和6年12月から運転手の不足により運休となったことがあげられるが、美幌駅循環線及び登下校線（南回り）の一部の路線については利用者数の増となり、住民の生活交通手段としての役割を果たしている。

乗合タクシーについては、全体をとおしてみると計画運行回数を下回り、利用のない地域もあったが、市街地や農村地区に居住する町民、特に高齢者等の交通弱者の生活の足として重要な移動手段となったことから適切な運行ができています。今後も、人口減少により利用者数の減少が想定されるが、確保維持しなければならないものであり、事業は適切である。

6) 目標・効果達成状況

・市街地路線バス（美幌駅循環線・美幌駅旭小学校線・登下校線（北回り・南回り）・美幌高校線）の輸送人員の目標21,800人/年に対し、16,064人/年と目標を下回り、目標達成率は74%、前年比654人の減少となった。また、補助対象路線とはなっていないものの、デマンド型バスの申込バス「もーびー」については、輸送人員6,050人/年となり前年比745人の増加となった。

・地域内フィーダー系統（美幌高校線を除く路線バス4路線及び乗合タクシー）について、経常費用に対する収入割合の目標値を13%ととしていたが、11.28%となり、前年度より0.33ポイント減となった。

・乗合タクシーは、537人/年の輸送人員となり、前年比37人の減少となった。人口減少に伴い農村地区の人口も減少していることから全体的に利用者が減少しており、2方面（栄森・日並）で利用がなかったが、豊岡方面については利用者が増えており、混乗スクールバスとあわせ、農村地区の住民の足が確保された。

・運転免許証自主返納等事業による共通助成券の利用率について、市街地路線バス及びもーびーでの利用率の目標値12%ととしていたが、R6.4月～R7.3月の利用率が8.35%となった。

7) 事業の今後の改善点

・市街地路線バスについては、R4.4月の大幅な見直し以降も利便性の向上と効率的な運行を図るため、随時見直しを行ってきていることから、さらなる住民の定着が図られるよう、住民への周知を行うとともに、共通回数券の販売促進により利便性向上を図る。

デマンドバス（申込バス「もーびー」）との役割分担を図りつつ、町全体の利用者のニーズに寄り添えるよう引き続き検討を行い、利用促進を図る。

・町内の美幌高校の生徒数が前年と比較し減少しているが、登下校線（南回り）の利用者数の増加がみられたことから、今後においても高校生へ向けた利用促進策を検討し、利用促進に努める。

・乗合タクシーは、農村地区の利用者のニーズを把握し、現行事業を基本とした中で、運行回数・運行時刻等について引き続き検討を行い、利用促進を図る。

8) 地方運輸局等における二次評価結果

- ・自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。
- ・いずれの目標もを達成することができなかったが、デマンド型バスは前年から輸送人員は増加しており、今後も地域公共交通計画に基づき、利用促進策の取組を継続することを期待する。
- ・持続可能な公共交通を維持する観点から、収支率や公的負担額といった事業効率の改善につながる目標を設定することもご検討いただきたい。